

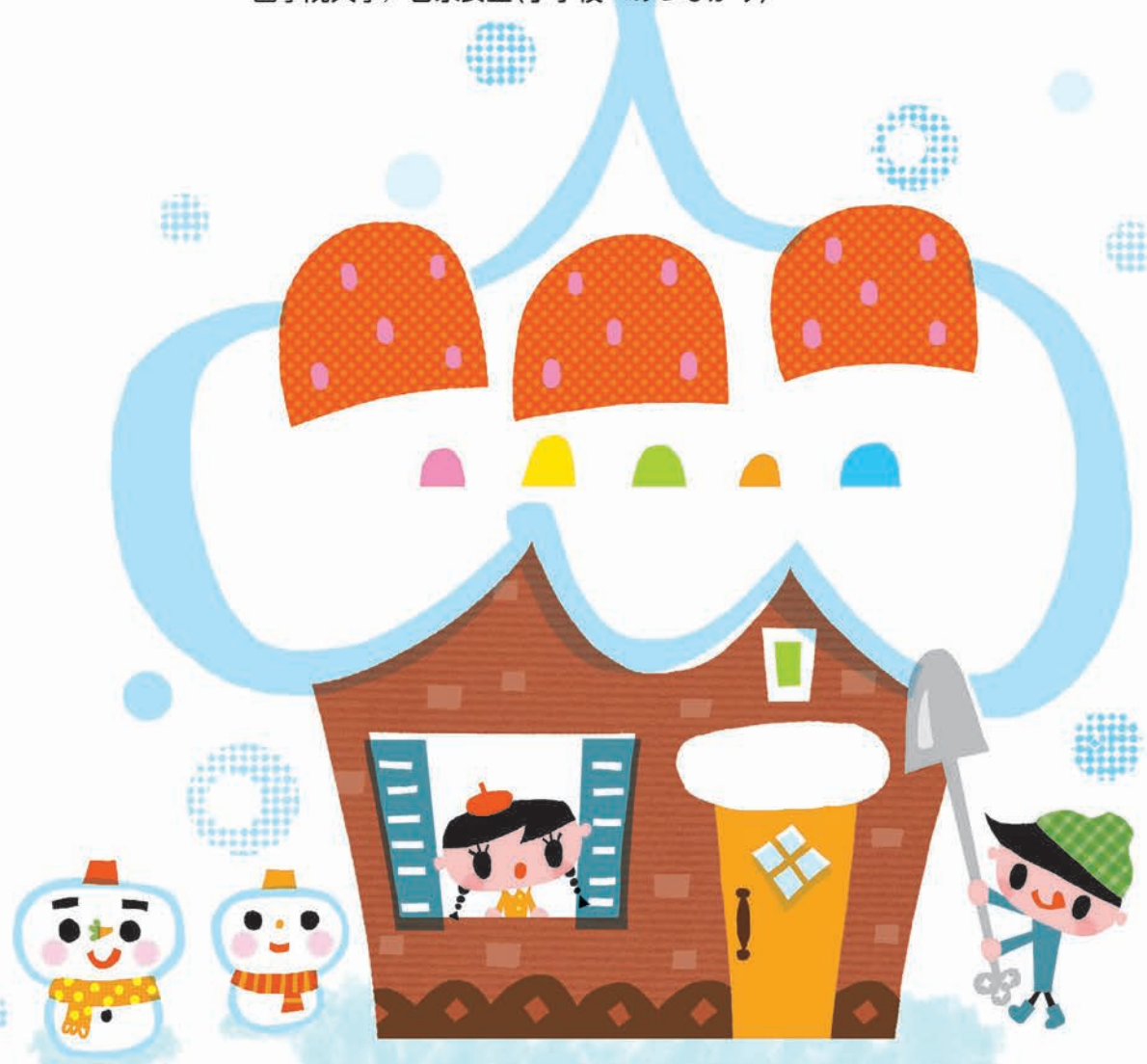
# 指導のポイント

監修：白梅学園大学大学院／無藤 隆

執筆：共立女子大学／白川佳子(ねらい)

東京家政学院大学／和田美香(導入・展開の言葉かけ)

國學院大学／吉永安里(小学校へのつながり)



『キンダーまなびきっず』は、5歳の時期にふさわしい「考える力」が育つことを目指し、「ことば・かず・くふう」の3つの柱で、子どもたちが楽しく考えることができるようなページ構成になっています。子どもが日ごろの遊びや日常生活の体験をイメージし、自然に無理なく、楽しい気持ちで取り組めるように、「ねらい」「導入・展開の言葉かけ」「小学校へのつながり」のポイントを本書では紹介しています。保育の中で子どもたちと取り組む際に、ぜひ活用ください。

## ことば(言葉・文字)

言葉のつかい方や文字の書き方、漢字の成り立ちについて楽しく学びます。

### ことば P.4~5 隠れている文字・言葉

**ねらい** 単語を音に分けて、単語の中に隠れている別の単語を探すことによって語彙を増やします。

#### 導入の言葉かけのヒント

「かくれんぼは好きかな。これは言葉のかくれんぼだよ。文字の中に、とてもじょうずに生きものが隠れているから探してみよう」と誘うと、楽しんで取り組みます。

#### 展開の言葉かけのヒント

生きものの文字を見つけたら、その文字を丸で開んだり色をつけたりして、「みつけた!」と言いながら確認するとわかりやすいでしょう。「ぞうくん、こんなところに隠れていたのね」「うしさん、出ておいで〜」と生きものに声をかけるようにして進めると楽しいでしょう。

#### ● 小学校へのつながり

ある文字列の中から新たなまとまりを見つける力は、長く続いた文の中から単語や句、節などの情報のまとまりを見つけ出す読みの力の基礎となります。初めのうちは、文字を目で見てまとまりを見つけるのは難しいので、ゆっくり声を出して、何度も繰り返し読んでみるとよいでしょう。



### ことば P.6~7 助詞

**ねらい** 名詞に付いてはかの語との意味関係を示す助詞の働きに注目し、助詞が変わると文の意味も変わることを学びます。

#### 導入の言葉かけのヒント

助詞の部分を強調して文を読んでみましょう。「□の字が違うと、しまいくんの遊びが変わるね。□の中は、魔法の文字だね」と助詞への興味を誘います。

#### 展開の言葉かけのヒント

助詞の違いによって、しまいくんの遊びが変わることを確認します。「ひとりで遊んでいるね」「これは、いっしょに遊んでいるね」と絵を見ながら、その違いを確認しましょう。助詞の違いに気づいたら、マッキーの歌の課題を考えてみましょう。

#### ● 小学校へのつながり

助詞は、名詞と動詞、名詞と名詞などをつなぎ、その意味関係を示します。どんな関係なのか(例: ナッキーがしまいくん「と」遊んでいるね。ナッキーだけでなく、しまいくん「も」遊んでいるね)、言葉や文を付け加えながら意味や状況が理解できるようにするとよいでしょう。小学校以降の文法や読解につながるたいせつな学習です。



### ことば P.8~9 文作り

**ねらい** 絵を見ながら「だれが」「どこで」「何をした」という文作りに取り組み、文の構造に親しみます。

#### 導入の言葉かけのヒント

「マッキーとナッキーは、どこで何をしているのかな。しまいくんの文のように、マッキーとナッキーの文を考えてみよう」と誘います。

#### 展開の言葉かけのヒント

なかなかスムーズに文を作ることができない場合は、「これはだれかな?」「場所はどこかな?」「何をしているのかな?」と、一つひとつ質問していくとわかりやすいでしょう。「場所は家だね、お餅を食べたんだね」と確認してから、一文の形式に当てはめていくとよいですね。

#### ● 小学校へのつながり

5W1H(いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どんなふうに)は、情報伝達にも、文構造の理解にも必要な基本要素です。まず、「だれが」「どこで」「なにをした」から、理解したり表現したりすることに慣れ、小学校の読むこと、書くことの学習につなげていきましょう。





# かず (数量・図形)

思考力や認識力の礎となる、数や図形の基本的な概念について楽しく学びます。

## かず P.16~17 合成(足し算)

**ねらい** 2つの数を合わせるといくつになるのかを考えながら、足し算の概念に親しみます。

### 導入の言葉かけのヒント

子どもたちが親しみやすい「おはぎがお嫁にいくときは」などの歌をうたいながら、「わあ、おいしそうだね。あんこときなお餅、いくつ食べたい?」と質問をして、導入するとよいでしょう。

### 展開の言葉かけのヒント

「マッキーは2個、ナッキーは3個、あんこもちを作ったんだね。合わせていくつかな」と聞きます。右手と左手に分けて指で示し、指を動かしてかぞえながら足してもよいでしょう。わかりにくい場合は、おはじきなどを1対1で対応させてから、並べてかぞえてみるとよいですね。

### ● 小学校へのつながり

足し算の方法を教え込むのではなく、足し算を適用する場面かどうか判断できること、数を合成する意味を理解できることがたいせつです。「合わせていくつ?」という問いが、合成を意味することに気づけるようにしていきましょう。



## かず P.18~19 分解(引き算)

**ねらい** 全体の数からある数を取り除いた残りの数を確認しながら、引き算の概念に親しみます。

### 導入の言葉かけのヒント

「作ったお餅をみんなで食べるようになったよ。いいね、おいしそう。お餅をテーブルに並べるから手伝ってね」と声をかけ、お餅シールをテーブルに貼ります。

### 展開の言葉かけのヒント

「いくつ食べるのかな?」「マッキーは1個」「ナッキーは3個」と言いながら、シールを指定の数だけトレイに移します。「モグモグ……」などと言って、マッキーたちの口に運んでも楽しいでしょう。「残りはいくつ?」と、その都度テーブルのお餅の数を確認するとわかりやすいですね。

### ● 小学校へのつながり

「残りはいくつ?」という問いが、全体からある数を除いた残りの数を探求していることや、全体は除いた数と残りの数の合成であることなどの気づきをたいせつにすることが、引き算の学習につながっていきます。



## かず P.22~23 たくさんの数

**ねらい** 10より大きい数について、10を単位にしたひとつのまとまりを意識しながら、大きい数をかぞえることに親しみます。

### 導入の言葉かけのヒント

「お正月にはカルタ取りを楽しんだかな。カルタはたくさん取れた人が勝ちだね。さあ、ナッキーやマッキーたちは何枚取れたかな。いっしょにかぞえてみよう」と誘います。

### 展開の言葉かけのヒント

「同じカルタを2回かぞえないように、かぞえたものは鉛筆で印をつけるといいね」と提案します。「10をひとつの仲間にするよ、かぞえやすいよ。鉛筆で10の仲間を囲んでみようね」と声をかけます。仲間やグループという言葉をつかうと、まとまりをイメージしやすいでしょう。

### ● 小学校へのつながり

10のまとまりを意識し、10のかたまりと1がいくつという考え方に慣れることが、十進位取り記数法(0~9の10個の数字をつかって数を表す方法)の理解につながっていきます。



# くふう (思考・創造)

自ら考え創意工夫する力(思考力・創造力)を養い、小学校での学びの土台を育みます。

## くふう P.28~29 推理

**ねらい** シールを使ったり頭の中で図を回転させることで、推理しながら図形感覚を育みます。

### 導入の言葉かけのヒント

「ぞうさんが矢印の方向に転んじゃったよ。どんな格好になるかな」「おむすびは、おむすびころりんだね」などと導入します。「回す」という言葉をつかってよいでしょう。

### 展開の言葉かけのヒント

シールをつかって、実際に絵を操作して考えると、回転がイメージしやすくなります。慣れてきたら、「このおむすびは、何回転がっちゃったのかな?」とほかの絵についても聞いてみるとよいでしょう。「1回ころん……」と、シールを回転させてみるとわかりやすいですね。

### ● 小学校へのつながり

図を回転させると、どの部分がどこにくるか、部分ごとに位置を確認するとよいでしょう。実際にシールをつかって、90度回転させる活動を繰り返すことで、角度や図形の学びにつながります。



## くふう P.30~31 発見

**ねらい** 身近な自然現象を意識しながら、不合理な点を発見し、探究心を育みます。

### 導入の言葉かけのヒント

「風が吹くとどうなるかな」と問いかけ、「強い風が吹くと飛ばされちゃうよね」と、これまでの体験を思い出します。実際に風を感じたタイミングで導入できるとよいですね。

### 展開の言葉かけのヒント

「風はいろいろなものを自分といっしょに連れていってしまうみたいだね。風や風船は、どちらの方向に連れていかれているかな。その方向が風の向きだね」と、見えない風の向きを想像できるような言葉をかけます。うちわと紙テープなどをつかって、実験できるとわかりやすいですね。

### ● 小学校へのつながり

風向きとものの動きや太陽と影の関係など、身近な自然現象を実際に観察し、関係性について考えることは、小学校の生活科や理科の学習を下支えする力となります。



## くふう P.32~33 まとめ(弁別)

**ねらい** 左右の絵を見て同じものと違うものを見分けることで、識別する力を養います。

### 導入の言葉かけのヒント

「マッキーたちが、はねつきをしているよ」と絵に興味をもつような言葉をかけます。「この2つの絵は同じかな。どこが違うかな」と問いかけてみましょう。

### 展開の言葉かけのヒント

「ここが違う」と1か所でも違いに気づいたら、「どう違うのかな?」と、その理由を言語化して説明してもらえるとよいでしょう。なかなか違いが見つからない場合は、絵を区切って、範囲を狭めると見つけやすいでしょう。「ほかにも違うところはあるかな?」と、楽しんで取り組めるように誘います。

### ● 小学校へのつながり

集中して絵を観察し、部分に着目して違いを見分ける活動は、どの学習にも必要不可欠な集中力、忍耐力、観察力、比較する力を養ってくれます。

